

全国学力・学習状況調査(小6・中3対象)

5月27日(木)一斉に全国学力・学習状況調査があります。実施教科は国語と数学です。学校では、これまでの過去問題や正答率の低かった問題の復習に取り組んだり、県学力調査で定着率が低かった内容の問題に取り組んだりしてきました。また、宿題や自主学習でも取り組んできたことと思います。

3年生の皆さん、5月27日はテストの全国大会です！受験は団体戦！三中生としての誇りを持ち、一人一人が持てる力を十分発揮し、最後まであきらめずに受験してください。

ドラマ「ドラゴン桜」①

ドラマの中で桜木先生は「東大が一番求めているものは何か？ それは、『どれだけ本質を考える力があるか』ということだ。東大生は、日常目にするすべてのものに対して『なぜ？』を考え、本質を見ようとする。そして、その本質をシンプルに伝える力を身につけている。また、その力は社会に出てから一生求められるスキルである。」とっていました。・・・なるほど！今学校で身につけるべき力は、①基礎的・基本的な知識及び技能②思考力、判断力、表現力③主体的に学習に取り組む態度です。

授業中に一人で考えたり、話し合ったり、教え合ったり、発表したりするのは、「なぜ？」を考え(思考力)、友達にわかりやすく「伝える力」(表現力)を身につけるためなのです。「考える力」「伝える力」は、社会に出てから必要な力です。

また、桜木先生は『人の気持ちを想像できる力』、『本質を見抜き、自分なりの答えを出す力』が社会に出たら大事だ。そのためには、勉強するしかない。勉強はこの国で許された唯一の平等なんだ。不満ばかり言う人生を送りたくなければ勉強しろ！」と生徒たちに話していました。過激ではありましたが、中学生がよく疑問に思うものの一つで「なぜ、勉強しなければならないのか」について説得力のある話だと、私は興味深く視聴していました。

努力の上に花が咲く

落語家の桂かつら小金治こぎんじさんは、父親が神棚さかまの榊さかきの葉で吹く音色のよさに聞きほれ、「自分も！」と懸命に練習したが、父親のように吹けず投げ出してしまったそうです。

その時、父親から「実行、努力までならみんなする。そこでやめたらドングリの背比べで終わりなんだ。一步しんぼう抜きん出るには、努力の上に『辛抱』という棒を立てるんだよ。この棒に花が咲くんだ。」と言われたそうです。

また、オリンピックで4大会連続のレスリング金メダリストの伊調いちょうかおり馨かおりさんは、スピードスケートで金メダリストの小平こたいらな奈緒なほさんとの対談で、「とことん練習していると、『分かった』と思う時があるけれど、またすぐ分からなくなる。忙しくて練習から少し離れるとゼロに戻ったり、マイナスになる。やっぱり、分かりかけた時がとことん努力しないといけない時期というか、バーンと成長するか、止まってしまうかの大事な分かれ目なんだと思う。それに、あきらめずに毎日工夫を重ねて努力していると神様がたまにヒントをくれる。だから、失敗を恐れず、勇気を持って努力し続けています。」と。

夢や目標に向かって、今精一杯努力していること、そしてそんな自分を信じて、やり続けることこそが、成功への道なのです。三中生の皆さんも、何事もあきらめず、自分を信じて最後までやりきろう！そして、努力の上に自分だけの花を咲かせよう・・・。